

令和2年度教員の養成・採用・研修に関する一体的改革推進事業報告書 I

「オン・デマンド教材を用いた研修とその効率化に関する調査・研究」

研究代表者 長崎大学言語教育研究センター 廣江 顕

1. はじめに

本報告書は、「令和2年度教員の養成・採用・研修に関する一体的改革推進事業」において、「オン・デマンド教材を用いた研修とその効率化に関する調査・研究」というテーマで採択された受託事業（研究代表者：長崎大学言語教育研究センター廣江顕）の概要であり、2巻から構成されている。

本巻は、（長崎県における）離島・半島地域及び遠隔地の中学校に勤務する英語教師を主な対象として、さまざまなデバイスや機器を併用したスピーキングの指導法及び評価の研修を、オン・デマンド教材を使用しながら受講者自らが勤務時間の管理を行う形式で、移動や出張を伴わないリモート研修の在り方を探る目的で作成された、研究代表者のホームページ（タイトル：「英語へのアプローチ」）の概要を記述したものである。

昨年からのコロナ禍で、義務教育における外国語教育のあり方が、『学習指導要領』の改訂に伴う形で、根本から見直される契機になっていると言える。短期間で収束するようなものであれば、緊急事態宣言が解除された後、「いまできることをやればよい」といった、処方箋的な対処も選択肢の一つであったが、こうまで長く続くと児童・生徒につけたい力を見据えた年間計画を練り直す必要がある。

その一方で、これまで行われてきた教師への研修講座や各種部会、あるいは他校での研究授業の参観に至るまで、その実施形態が対面式からオンラインあるいは動画への転換を迫られ、Zoom、Webex、Microsoft Teams等々のアプリを活用した実施が日常の光景となりつつある。しかしながら、学校をはじめとした公的機関（教育庁、市町の教育委員会等も含む）でのPCやデバイス上でのアプリの使用に関しては、セキュリティ上の理由から、さまざまな制限が課されているため、ネット経由で十全に使用することは、場合によっては難しいのが現実である。

また、ここ数年、教育現場にも強く要請されてきた「働き方改革推進」というスローガンのもと、教師の研修もリモートで行い、多忙を極める教師に研修に参加するための移動や出張を可能な限り省こうという努力もなされている。

本受託事業の目的の一つは、以上のような状況を踏まえ、研修開催場所の長崎市からは遠隔地の離島・半島地域にある中学校に勤務する英語教師を主な対象として、教科に関する研修を勤務校で、しかも勤務時間内に行えるよう、オン・デマンド動画教材を作成し、ネット上でアクセスし使用していただける環境を提供することである。

さらに、オン・デマンド動画教材といっても、さまざまなコンテンツ、スキルを扱ったものがあるなか、恐らく最もオンライン、オン・デマンド教材には合わない、一般には考えられているスピーキング・スキル及びその評価を取り上げた。評価については、近年、形成的評価として幅広く取り入れられているパフォーマンス評価を扱った。

本事業が、コロナ禍だけでなく、コロナ後においても、日々、時代に合った資質・能力を習得するべく努力しておられる英語教師に何らかの形で役立てば幸いである。

2. アンケート調査

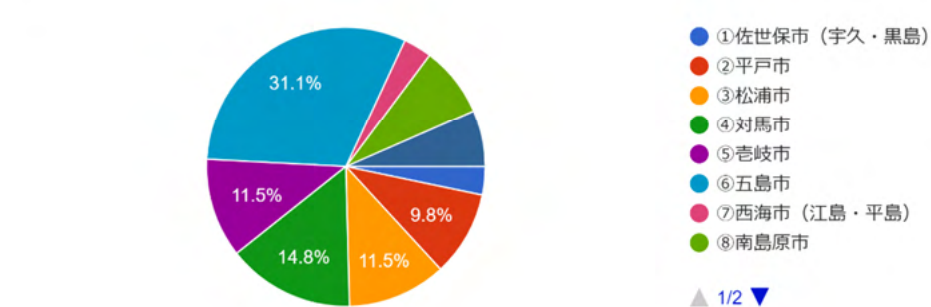
本受託事業では、「働き方改革」の一環として、離島や半島地域という、言わば遠隔地と位置付けられている地域の中学校に勤務し、英語指導に携わっておられる先生方にアンケート調査を行った。本調査の目的は、県庁所在地の長崎市で公的研修を受講する代わりに、オン・デマンド教材を用いて、学校等の勤務時間内で研修を受講することがどの程度可能かを探るものである。

2.1 アンケート調査結果

本アンケート調査は、長崎県教育庁義務教育課の協力のもと行われた。義務教育課より長崎県におけるそれぞれ市町の教育委員会を通して、現場の先生方への回答依頼が行われ、回答数は61名となり、15.9%の回答率となった。¹

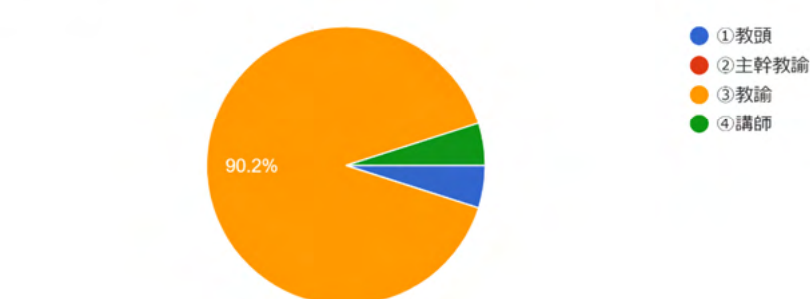
問1. 勤務校の所在地域

61件の回答



問2. 貴職名

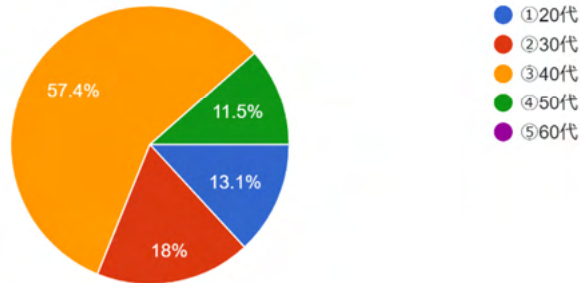
61件の回答



¹ 長崎県においては、15.9%もの教員が離島・半島地域という遠隔地で勤務していることが分かる。

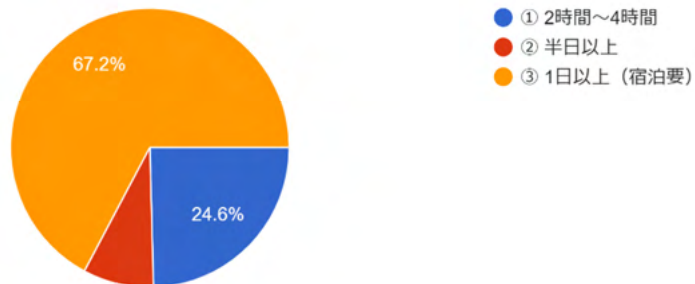
問3. 御年齢

61件の回答



問4. 長崎市での終日の研修に参加する場合、往復でどれくらいの時間がかかりますか。

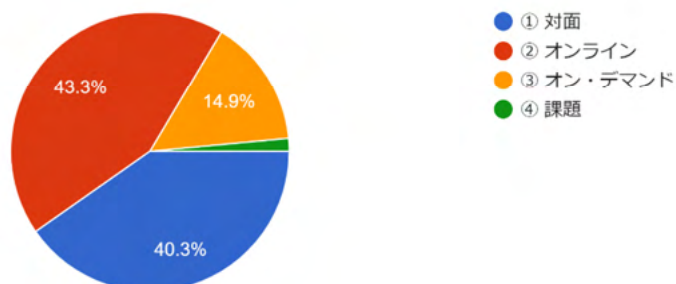
61件の回答



問5.

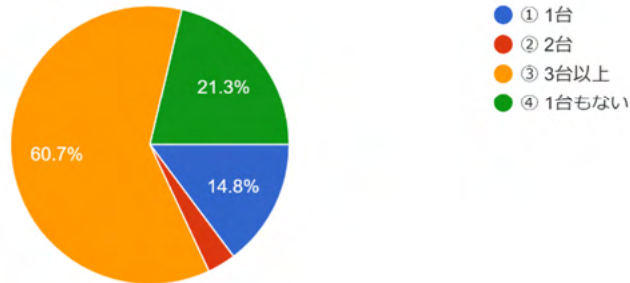
研修を受講する際は、こういった開催形式が望ましい...eams、Webex等のアプリを想定しています。

61件の回答



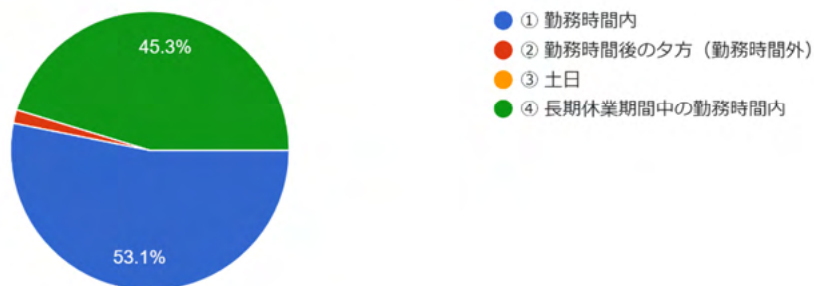
問6. 問5で言及したアプリを使えるPCは、職場に何台ありますか。

61件の回答



問7. 研修を受講する時間帯は、以下のどの時間帯が望ましいと思われますか。

61件の回答



問8. 問7で①～④のいずれかを選ばれた理由をご回答下さい。

- ・研修は業務の一環だから。
- ・夕方等時間的に厳しいからです。
- ・勤務時間内で行うべきだと思うから。
- ・まとまった時間がとりやすいため。
- ・休日返上は難しいため。
- ・休日は子どもがいるのでできないが、研修ならば勤務という形が理想。長期休業日ならば授業がないので実施しやすい。
- ・生徒がいる時間は生徒指導に時間を使いたいので。
- ・研修の時間を十分確保して頂きたいから。
- ・研修も仕事に含まれるから。
- ・職務に関することなので、勤務時間が望ましいと考えます。
- ・働き方改革の観点からも勤務時間外での研修は望ましくない。

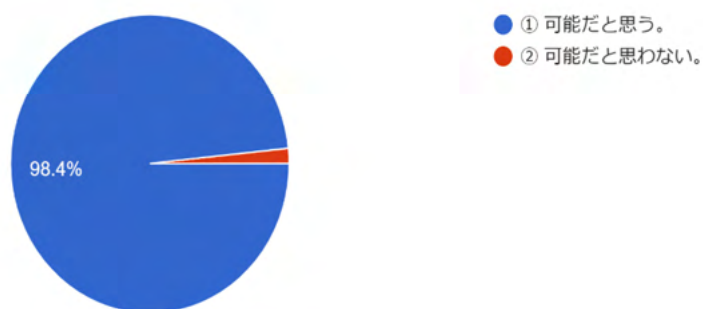
- ・勤務時間外に研究と修養に務めることも必要だと思いますが、働き方改革が推進される中で勤務時間外に研修の日程を設定するのは望ましくないと思います。
- ・夏休みの方が時間に余裕があるから。
- ・夕方や土日は負担になると思います
- ・勤務時間は他の業務で忙しいため。
- ・勤務時間内かつ授業や学級経営に影響しないようにするため。
- ・時間的、精神的余裕があるから。
- ・勤務時間内の研修から、必要に応じ、校内での伝達研修実施という流れを構築したいので。
- ・長期休業中は時間に余裕があるから。
- ・長期休業期間中の方が、まとまった時間を取りやすい。平日は、時間割のやりくりなどが難しい。
- ・時間に余裕があるから。
- ・残業になるので。
- ・勤務時間後、土日については、小さな子どもがおりますので、難しいです。また、英語科は時数が多いですので、通常の勤務時間に行うのも難しいと感じます。
- ・働き方改革のため、勤務時間内にしてほしい。
- ・部活動など、勤務時間外においても業務があるため。
- ・どの研修も勤務時間内に行われているため
- ・①または④勤務時間内が望ましい
- ・授業もなく、時間割の関係で他の先生に迷惑をかけることもないから。また長期休業中であれば部活動も調整しやすいから。
- ・時間に余裕があるときに受講したいから。
- ・通常勤務をしながら受講する時間と場所の確保が難しいから。
- ・勤務時間外の仕事は避けたいので。
- ・内容によりますが、業務の一環として考えるのであれば、勤務時間内で行いたい。しかし、悉皆研修でなければ、勤務時間外で研修を行いたい
- ・平日の勤務時間内だと、授業の合間になるので落ち着いて研修を受けにくいから。
- ・時間にゆとりがある
- ・落ち着いて研修を受けれるから
- ・対面方式希望なので勤務時間。
- ・対面なので。
- ・長期休業中の方が、他の仕事に影響が少ないため。
- ・授業に影響あるいは支障がないから
- ・個人的な研修以外の研修は、勤務時間内に行うべきだと思うから。

- ・研修ならば勤務時間内が好ましいが、学期中は時間的な余裕がなく、しっかりと取り組むことができないから。
- ・部活があるので勤務時間内の方が良い
- ・研修であるなら勤務時間内に行くべきものだから。
- ・勤務時間外や休日に行うとなると負担感が増すから。
- ・通常日では時間がとれない
- ・勤務時間外は家庭のことなど他にすべきことが沢山ある。その時間に研修を受けるのは、家族に理解がないと参加しづらい。長期休業中は帰省など連続した休みを取れる数少ないチャンスなので、できるだけ避けたい。

問9.

研修で取り上げるトピックがスピーキングスキルで...場合、対面を除いた研修は可能だと思いますか。

61件の回答



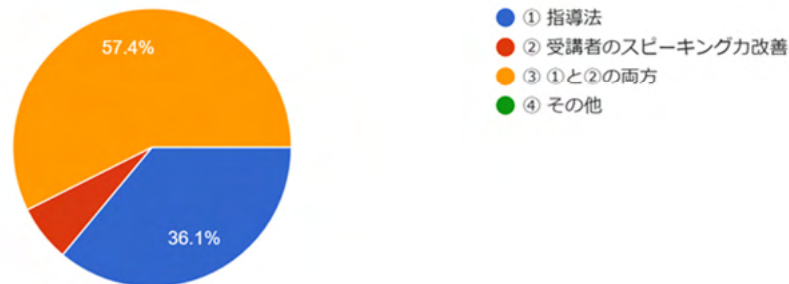
問9. 可能だと思われない場合、その理由をご回答下さい。

- ・勤務校に英語科の教員が複数いれば可能だと思われる。本校は1名しかいない。
- ・実際の会話練習が必要だと思う

問10.

研修をオンラインあるいはオンデマンドで行う場合...善のための講座どちらが望ましいと思いますか。

61件の回答



問 10. ④その他

- ・今必要であり生徒に還元できる

2.2 考察

(1)長崎県の特異性

上記アンケート調査結果が示しているのは、長崎県の場合、県庁所在地である長崎市まで、研修等に参加するには、宿泊を要する教員の割合が 67.2%に上っているという事実である。この事実は、これまでも度々指摘されていた問題ではあったが、コロナ禍という状況下で一層顕著になったと言える。というのも、何らかの公的研修が行われる場合、対面以外の実施方法を模索するしか手段が無いからである。

(2)実施方法

英語の教科研修を開催する場合、(1)を踏まえれば、その手段も併せて考える必要がある。一方で、研修を受ける際に対面を希望する英語教員が 4 割いるということは、その両方を満たす研修の実施方法は、オンラインあるいはオン・デマンド方式のいずれかになってくる。

その際、本アンケートによる調査範囲を超える課題がある。それは研修を運営する主体が、教育庁をはじめとする市町教育委員会の場合、公的機関のセキュリティ上の理由から、例えば、Zoom のような、大学等の機関で広く使用されているアプリを使用できる端末が限られているという問題がある。実際、長崎県教育庁義務教育課は、研修ではなかったものの、「長崎県英語教育推進協議会」という大学教員、指導主事等の教育委員会関係者、小中学校の校長等で構成される、長崎県独自の協議会を開催した際、Zoom ではなく、Webex を使用して行った。

ただ、Webex を使用することで解決が図られたかという点、必ずしもそうではない。使用した機関に導入されている機器の OS や世代、あるいは天候等の環境により、通信環境が左右されるということも明らかになった。

さらに、研修では、参加し聴講しておけばよいというわけではなく、参加者も自ら実践し意見を述べ、それを他の参加者らと共有し、異なる意見にも耳を傾け、自らの足りないところを見つけ出す資質・能力が求められる。そうすると、やはり、研修の双方向性を担保するという意味でも、端末は PC が望ましく、タブレット（やスマホ）がいくら常備されていても、研修実施者と参加者との双方向のやり取りには使いづらいという難点がある。

(3)研修の実施時期・時間帯

問 7 では、研修の実施時期は「長期休業期間中の勤務時間内」と「勤務時間内」で 98.4% を占めた。その結果と問 8 への回答結果を合わせると、「長期休業期間中の勤務時間内」で研修を実施して欲しいというのが、働き方改革という観点からも、現場の教員の偽らざる声であろう。

今年度、文部科学省の受託事業で行ったケンブリッジ出版局のオン・デマンド研修において、長崎県の離島地域（新上五島地域 1 名、壱岐地域 9 名）から 10 名が受講し、勤務時間内での受講が指示されていたにもかかわらず、土・日に受講するしか時間が確保できなかった教員も実際にはいた。

(4)研修で取り上げるトピック

本アンケートでは、恐らく最も対面を除いた実施方法では成果が得難いと考えられているスピーキング・スキルを、オンラインあるいはオン・デマンド方式での実施が可能かどうかを調査し、98.4%が「可能だ」との認識があることが分かった。また、研修講座では、「(スピーキングの) 指導法」と「受講者（教員本人）のスピーキング力の改善」で 93.5%を占めることから、当該地区の英語教員は、令和 3 年 4 月から実施される『学習指導要領』が求める授業のあり方を、『長崎県学力調査』及び『全国学力・学習状況調査』等を介しながら、² 一定程度ではあるものの、理解しつつあることが影響していると考えられる。

² 長崎県では、令和 3 年度からの『学習指導要領』が求める学力、中学卒業時に求められる英検 3 級程度の学力の達成率と『長崎県学力調査』結果の相関関係、また『全国学力・学習状況調査』を踏まえた授業づくり等々を「長崎県英語教育推進協議会」等の機会に周知・発信する機会を設けている。

3. 動画教材のためのアンケート調査

第4節で提示する、中学校英語教師用オン・デマンド動画教材を作成するための参考資料とするため、設問別にテーマを設け、長崎県の各市町の教育委員会にアンケート調査を行った。³

問1. 単元における主体的・対話的で深い学びの在り方について

- ・生徒が「知りたい・聞きたい」と感じさせる授業展開をどのように仕組んだらいいのか。
- ・めあてに即した本時のまとめ・振り返りをどのように行えばよいか。
- ・単元全体を見通し、本時のめあてをどのように提示するかがいまひとつ分からない。また、めあてに即した本時のまとめ・振り返りをどのように行えばよいか悩むことが多い。
- ・「単元における主体的・対話的で深い学び」を実現する具体例を知りたい。
- ・単元全体を見通し、本時のめあてをどのように提示するか、どの程度のものにすればよいか、また、生徒の興味を引くような単元目標を考えるのが難しい。
- ・主体的な深い学びを進めていくために効果的な方法はないか。
- ・めあてに即したまとめ・振り返りをどのように行うか悩む。
- ・最終的に「深い学び」へ導くために、前段階としての「主体的」・「対話的」な学習を具体的にどのような形（方法・資料等）で仕組むと効果的なのか悩んでいる。
- ・「学習に向かう人間性」の視点を抑えた上で、深い学びを仕組むその具体例を紹介してほしい。
- ・深い学びに到るまでの指導の工夫について、その手法や発問の工夫について悩んでいる。
- ・見方・考え方を働かせた「読む」活動（必要な情報を読み取る活動）にするための、めあてがなかなかうまく設定できない。
- ・生徒が主体的に取り組むような単元のめあてや本時のめあてをどのように設定すればよいか悩んでいる教員が多いのではないか。
- ・指導案を見ると、めあてやまとめ、振り返りの捉えが先生方によって異なっている場合があると感じる。
- ・単元名がめあてになってしまうことがあるため、主体的・対話的となるめあての提示が求められる。
- ・まとめは、言語習得に重きを置くのか、表現力に重きを置いた方がいいのか悩むことがある。
- ・学習指導要領の改訂に伴い、指導方法がどのようにあるべきか、発想の転換がうまくいっていない。めあてについては、「have to を使って文を作れるようになろう」などというものがいまだに見られる。また、急激な転換を見せ、授業の中で行われる対話的活動の7～8割が日本語ということもある。
- ・めあて・まとめの在り方の具体の研修があるとありがたい。
- ・学校訪問等で授業を参観した際、めあての提示、まとめについて十分ではない様子が見られることから、例にあるように、「単元全体を見通し、本時のめあてをどのように提示するかがいまひとつ分から

³ 本アンケート調査は、長崎県教育庁義務教育課の助力を得て、20市町の教育委員会からの回答があった。ここに感謝申し上げます。

ない。また、めあてに即した本時のまとめ・振り返りをどのように行えばよいか悩むことが多い。」のではないかと考える。

- ・単元の中で、主体的に学習を見通し、振り返る場面をどう設定すればよいか。
- ・深い学びを実現するために、子供が考える場面と、教員が教える場面をどのように設定することが効果的か。
- ・新言語材料を活用させる単元のゴール設定ができていないため、主体的な学びにつながらない。
- ・主体的・対話的で深い学びとなる具体的な授業例、教材の指導例を知りたい。
- ・単元を通じて学んだ文法事項や進出短土・慣用表現等を活用しながら、自分の考えや思いを自然な表現で書いたり、話したりすることができる言語活動を仕組みたいと考えている。
- ・まさに例に示された「めあて」や「まとめ」の在り方について悩みを抱える声をよく聞きます。
- ・主体的・対話的で深い学びができた生徒の具体的なイメージがほしい。
- ・日頃実践している授業において「主体的・対話的で深い学び」になりえているのか、どのような課題があるのか不安である。
- ・単元全体で見通したゴール設定と単元の組み立て方。
- ・文法偏重にならない表現語彙の定着のさせ方。
- ・授業の流れの中で「めあて」を提示することはできるが、「まとめ」が文法内容の確認になってしまう。
- ・各単元で扱われている言語材料（文法・語彙）と教科書本文の内容理解の学習を基本に据えながらも、いかに児童生徒が自ら課題を設定し、主体的に取り組ませるか工夫が求められる。単元全体の導入、毎時間の導入が教師による一方的な課題設定やめあての押しつけにならないよう、どのような授業の組み立てが望ましいか。

2. 言語活動の充実について

- ・3・4年の授業内容において、教科書の内容のみでは難易度が高かったり、アクティビティが足りなかったりと感じる。クラス全員が参加できる様々なアクティビティが他にあれば知りたい。
- ・指導書どおりに進めると、活動が多すぎて終わらないことがある。どのように軽重をつけたらよいか知りたい。
- ・必然性のある目的、場面・状況を設定する方法を知りたい。
- ・目的・場面・状況等を意識した言語活動をどのように行えばよいか。
- ・英語科における言語活動がどのようなものを指し示しているのか認識の度合いに差がある。
- ・どのような教科書の内容とリンクさせた言語活動を行えばよいか。
- ・目的・場面、状況等（伝え合う相手を含む）を意識した言語活動の設定の仕方、行い方がわからない。
- ・言語活動を行う必然性（目的・状況等）を設定することが難しい。
- ・技能統合型の授業展開を目指すとき、その場面（活動）設定に苦慮する。具体例を示してほしい。
- ・即興で話す活動は継続的に行わないと力がつかないのは理解しておきながら、時間の確保に苦慮している。時間をかけずに活動しやすい内容があれば知りたい。

- ・生徒が積極的に取り組む言語活動を知りたい。
- ・語彙が少ない生徒たちに言語活動を行わせるのが難しい。具体的な手立てを知りたい。
- ・受容語彙と発話語彙について、効果的な学習方法を知りたい。
- ・コロナ禍の中でどう言語活動を充実させるか悩んでいる。
- ・スモールトーク等の言語活動を授業で行っているが、発問や展開がワンパターンになりがちである。生徒が関心を持って参加できるような発問や展開の工夫例を学びたい。授業の帯活動として取り組める活動例を知りたい。
- ・スモールトークが続かない。活発に行わせる手立てを知りたい。
- ・自分の考えや気持ちを伝え合う活動をどのように授業の中に位置づけるか試行錯誤している。いわゆる「練習」と「言語活動」のバランスや目的・場面・状況を意識した言語活動の具体例を知りたい。
- ・より現実に近い状況をいかに設定し、生徒に表現の習得の必要性を感じさせるかが課題である。
- ・生徒の思考力を深め、表現力を伸ばすために、2つ以上の技能を統合した言語活動をどのように仕組みばよいか。
- ・言語活動を楽しく行わせたいという思いからか、ゲーム性の強いものを取り込んでいる。中学生の発達段階にあったものも考えられているが、小学校で行ったレベルのものも多く、授業中に生徒が発達段階にあった学びをしているのか疑問に思うことがある。目的・場面・状況・・・ということをどう意識していくのか具体例があるとわかりやすいのかもしれない。（「市内に住む外国の方に、日本のルールを知らせよう」などという相手意識・目的意識を持たせては？アドバイスをした際、ご理解いただけました）
- ・他の先生方の授業を見る機会も少ないことから、言語活動についても悩みや不安があるのではないかと考える。
- ・外国語科における言語活動が、「話すこと（やりとり及び発表）」に偏りがちである。5領域の内、「読むこと」「書くこと」における言語活動の在り方について研修を深めたい。特に、小学校高学年における「読むこと」「書くこと」を育む言語活動の在り方や具体例を示していただけると有難い。
- ・生徒自身が自分の学びの成果を捉えられる効果的な振り返り（自己評価）をどのように行うべきか悩んでいる。
- ・目的・場面・状況等を意識した言語活動の充実について即興で伝え合う言語活動が思うように行えない。
- ・単元のゴールを達成するためのステップを踏んだ言語活動をどのように仕組んでいくか悩むことが多い。
- ・身に付けた知識・技能の定着を目指すための言語活動をどのように行ったらよいか悩むことが多い。
- ・場面設定（言語活動への必然性のある）の具体例や、オンライン授業で、生徒同士、または生徒と教師が対話する活動例についてどう工夫していいのかが悩んでいる。
- ・会話活動（ペア・グループ）では、単なるシェア活動にならないよう、あいづちや追加の質問等を行うように促したり、パターンを提示したりしている。

- ・「目的・場面・状況等」を意識した言語活動を、どれくらいの頻度（どの時期に）で実践したらよいか悩む先生が増えると思います。指導すべき語彙数が格段に増え、仮定法等の新しく指導すべき文法事項も増えたので、単位時間の指導内容や単元構成などに苦慮するのではないかと思います。
- ・クラス全員が学習に対してのモチベーションが高いわけでないので、ペアやグループの組み合わせ方が難しい。
- ・例と同様の課題、不安が大きい。
- ・例のように、具体的な言語活動の例をいくつか見せてほしい。
- ・新学習指導要領で「話すこと」が「(やり取り)」と「(発表)」に分けられた。多くの場合、教科書の単元やテーマに従って進められ、日常の各種会話、スピーチ、プレゼンやディベートなどが配列に沿って学習される。現状として、特に発表については、原稿作成、生徒相互のチェック、教師の助言、発表練習、本番発表など多くの時間が必要である。いかに効率よく学習を進めるかが課題である。

3. 評価の在り方について

- ・児童の達成度を評価するにあたり、どのような教材があるか知りたい。
- ・『新学習指導要領』における具体的な評価の仕方を知りたい。
- ・パフォーマンス評価をしたいが人数が多く、把握が困難に感じるため、その対応策が知りたい。
- ・パフォーマンス評価の仕方やルーブリック等の評価基準についてどのように定めたらよいのか。
- ・年間計画の中に、どのように、どの程度、評価の場面を位置づけるとよいのか。
- ・評価をする時に ALT を効果的に活用するにはどうしたらよいのか。
- ・限られた授業時数の中で、どのようにパフォーマンス評価を実施すべきなのか。
- ・新『学習指導要領』における評価の仕方になかなか自信が持てない。
- ・評価に関しては、とにかく基本的な捉え方（考え方）を知りたい。知識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう人間性の3観点において、具体的な学習活動を例に、説明してほしい。
- ・「学びに向かう人間性」や「思考・判断・表現」において、アウトプットのパフォーマンスをさせる場合、個々の生徒の能力を的確に捉える（評価する）ための手だてとしてどのような手段が考えられるか知りたい。
- ・単元の終わりにパフォーマンスを毎回仕組むことが望ましいと思うが、時間の確保が困難だと感じている。また、特に「読む」活動に関するパフォーマンスの実施方法についてどのようなものがあるか、具体例を知りたい。
- ・新学習指導要領における観点別学習状況の評価と評定の関連性に悩む。
- ・それぞれの観点をどのように評価するか、具体的な評価材料とともに知りたい。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価するべきか、自己評価は必要なのか、等、具体的に知りたい。課題の提出状況など、目に見えるものや数値化できるものに頼ってしまう。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」について、5領域において、基本的にそれぞれの活動に「取り組もうとしている」ことが評価規準の例としてあげられているのは何となく理解でき、レポートや授業中における活動の様子などで評価できるような気がしている。一方で、「主体的に学習に取り組む態度のイメ

ージ」の図を見ると、「自らの学習を調整しようとする側面」と「粘り強い取り組みを行おうとする側面」を何で評価していったらいいのか悩んでいる。思い浮かぶのは、振り返りシートに書かれた生徒自らのその授業の振り返りだが、他にも具体例があれば知りたい。

- ・三観点の評価の組み合わせで、「有り得ない組み合わせ」はあるのか知りたい。
（「思考・判断・表現」がbの場合、「態度」はbまたはcにしかならないのか？「思考・判断・表現」がbの場合、「態度」がaとなる場合はレアケースなのか？）
- ・3技能5領域の15の表を学期ごとに評価するイメージができていない。具体的な評価の方法を知りたい。
- ・「即興で伝え合う」ことについてのパフォーマンステストの評価に自信がない。
- ・パフォーマンステストの内容（例）、効率よくポイントを押さえた評価の方法について知りたい。
- ・即興でのやりとりやディスカッションなどの対話的な活動の評価方法に不安を感じている。
- ・どのようなルーブリックを用いた評価が適切か知りたい。
- ・ペーパーテストでは表現の正確さが重視されがちだが、パフォーマンステストで正確さを欠いたために、他の領域に影響が出た場合の評価の仕方に悩むことがある。
- ・評価についての研修の機会が少ないこと、英語科の教員が各校1名である学校等も多く教員同士で相談し合う場がもてないことから、新学習指導要領における評価の仕方、パフォーマンス評価の仕方に自信が持てないのではないかと考える。
- ・年間の評価計画の立案における留意点
- ・適切なパフォーマンス評価の設定を含む単元構想について研修を深めたい。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の仕方の具体的な方法。
- ・単元のねらいに応じたルーブリックを活用したパフォーマンス評価（特に、話すことの「やりとり」と「発表」）に自信が持てていない。
- ・パフォーマンス評価の仕方に自信がもてない。
- ・評価資料をどのように活用して評価を行ったらよいか、悩むことが多い。
- ・指導と評価が一体化する活動例について知りたい。
- ・主体的に学習に取り組む「態度」についての評価材、評価方法について十分に捉えられていない。
- ・パフォーマンステストについては、ALTの協力を得ながら、每学期複数回実施し、生徒自身がフィードバックできるよう工夫している。
- ・中学校は来年度から新学習指導要領が本格実施となり、その核となる評価の在り方については、具体的な実践例があると助かります。
- ・新学習指導要領での評価がスムーズに行えるソフトがほしい。
- ・新『学習指導要領』における評価の仕方、とりわけパフォーマンス評価の仕方になかなか自信が持てない。
- ・新「学習指導要領」外国語科における3つの観点を取り入れた活動の設定と具体的な評価の仕方。
- ・コミュニケーションにおける「関心・意欲・態度」の評価法について悩んでいる。

- ・特に小学校の先生方が外国語活動、外国語科における評価には、指導とともに不安を抱えている。専科の加配がある学校ばかりではないので、誰でも指導できる体制が求められる。評価の仕方やポイントなどをまとめたものがあるとよいのでは。

4. 特定の技能（領域）の定着を図る学習指導の在り方について

- ・「書くこと」を重視した単元の授業展開をどのように行うべきか知りたい。
- ・学力検査から見える課題を意識した授業展開をどのように行えばよいのか。
- ・「書くこと」の定着を図れるような単元の授業展開をどのように行うべきか悩んでいる。
- ・確かに、「概要・要点を読んで捉える」という技能の指導に苦慮している。テキストの物語（説明文）を初見で読み、要点や概要を捉える技能の向上に努めているが、未だに「一文ずつ訳をとる生徒」がおり一度躓くと、それ以降読み取ろうとしない（読み取れない）状況になる。効果的な活動があれば紹介してほしい。
- ・長年、長文を嫌悪する生徒が多いと感じる。これを打破するために様々な工夫を考えているが、未だに「これ」というものがない。もし、「こういう活動（読み取らせ方）は良かった」というものがあれば紹介してほしい。
- ・「読むこと」を重視した単元の授業展開をどのように行うべきか、またその評価を悩んでいる。
- ・「書くこと」を重視した単元の授業展開をどのように行うべきか、またその評価を悩んでいる。
- ・「書くこと」の能力を上げるために、1年生から段階的にできる指導はどうしたらよいか。「書く」意欲を引き出すことが難しい。
- ・「読むこと」と「書くこと」に対し苦手意識を持つ生徒への指導方法を学びたい。
- ・「読むこと」「書くこと」の活動の展開の方法と、補充学習（家庭学習）の課題の与え方について学びたい。
- ・「読む」活動において、読む必要感・必要性が生徒の中から自然に出てくるようにすることが、なかなか思うようにできない。
- ・即興性を重視しなければならないが、「話すこと[発表]」において、英語が苦手な生徒にもそれなりの達成感を味わせたく、事前に原稿を準備する活動を行いがちになってしまう。
- ・先日公表された県学力調査の結果から、大村市の生徒の課題は「書くこと」である。
「正しく書く」または「自分の考えを書く」ことを重視した活動を授業の中でどのように行えばよいか悩んでいる。
- ・「書くこと」の力を伸ばすために、特にテストで無解答としてしまう生徒に対し、日々の授業でどのような指導・支援をしていけばよいか。
- ・松浦市の場合、書くことについて特に課題がみられる。各学校では、短文を書かせるなどの取組をされているが、各力につながる指導に苦慮している。
- ・研修の機会が少なく、他の先生方の授業を見る機会も少ないことから、学習指導についてどの領域においてもそれぞれ悩みがあるのではないかと考える。

・本市では特に「書く力」が低い生徒が多い。その原因として、生徒が基本となる文法や正しい語順が定着しないまま、まとまった自己表現自由英作文やパフォーマンステスト等の活動へ飛んでしまっていること、依然として教員の間で日本語での文法整理やパターンプラクティスは良くないことだという思い込みがあるのでは、と予想される。また教員が添削のパラドックスに陥っている状況もある。

1) 4技能統合を意識しつつ、特に書く力を伸ばす帯学習の活動例集

2) 文法エラーを自分で気付く力を育てる際に指導者が日頃の授業で留意すること をご教授いただきたい。

・「読むこと」の指導において、「概要」を読み取らせるのか、「要点」を読み取らせるのか、発問の工夫ができていない。(全文の和訳に時間をかける授業もまだ残っている) ※例えば、現行の NEW CROWN の教科書の「読むこと」の題材では、「概要」「要点」「要点の整理」の順で問いが統一されており、読解の指導のヒントになる。

・各技能について生徒が段階的に取り組める学習活動の工夫について知りたい。

・帯活動をパターン化し、前時(新出文法・表現)の復習を行う中で、効率よく各技能の定着を図ることができるようにしている。

・「読む」活動においては、QA で読み取りをチェックするだけでなく、グループやペアで、内容を要約して伝え合う活動にも挑戦させている。

・4技能における accuracy の許容範囲が知りたい。

・教科書本文をどのように活用し、授業展開を行うか。

・読解力(複数の情報から読み取る、整理する)、表現力(自分の考えを即興で伝える)などの課題が指摘されている。一朝一夕に身につくものではなく、継続した取組が必要である。毎時間の授業(帯の活動など)や課外学習、家庭学習などをどのように活用したらよいか。休み時間や家庭での時間に詰め込みすぎてもいけない。

5. その他

・相手に気持ちを伝えるときには表情も有効であるが、教師も子供もマスクを着用しているため難しい。

・授業の中でどの程度日本語で説明してよいか、判断が難しい。

・効果的な班活動の在り方を知りたい。(どのような場面で、どのような方法で実施しているか。)

・今年はコロナウイルスの関連で、市の研修会が実施できておらず、市内の先生方の意見を直接聞くことができていないため、私自身の悩みということで書かせていただいています。来年度の授業に関してはいろいろと悩みがありますので、オン・デマンドの動画研修教材があれば大変ありがたいと思います。

・理論的なことについて指導要領を読み、そこから授業の具体を想像することになかなかつながらないような様子が見受けられます。(外国語に限らずですが。)理論があり、そのためにこのような実践が考えられます、ということが示されると、受講者自身の実践につながるような気がしています。

・研修の機会が少ない離島部にとってはとてもありがたい取組だと思います。また、オン・デマンドという点で時間・場所を選ばず研修できるところが魅力的です。

- ・中学校教科書（中2後半～中3）を用いての CILL 指導や単元コンテンツへの SDG's の取り入れ方の具体例を教えていただければ大変有り難いです。（ジャパンライム動画が、よくされているような模擬授業形式の動画だと大変有り難いです。）
- ・五島市では中学2年生を対象とした中1英語学び直し動画を作成しており、現場の先生方からも動画作成に関わりたいと希望をもらっているところです。動画作成時の注意事項などありましたらぜひご教授願います。（既にオン・デマンドを实践されている他県の先生方から「動画は8分以内に抑えること」と「ホワイトボードアニメーション形式が効果的」という2点は、取り入れ作成しているところです。）
- ・週末に開催される他県での研修に参加が難しい離島の教員にとって、英語科教師の研修動画は、大変ありがたいことです。感謝いたします。
- ・教科書のねらいに応じた題材の導入ができていない。
（本文が学級での発表内容なのに文字で導入したり、「読むこと」の題材なのに音声で導入したりするなど、題材に応じた導入の工夫がなく、一律の導入になってしまっている。）
- ・教師の英語の使用が指示などに限定されており、授業がコミュニケーションの場となるような英語によるやり取りができていない。
- ・小中連携の観点から、小学校外国語科とのつながりを意識した指導を行いたいと思っているが、具体的にどのようなことができるか知りたい。
- ・生徒の興味・関心を高め、学習意欲につなげることができる手立ての工夫を図るようにしている。
- ・ありがたい取組と感謝し、とても楽しみにしています。
- ・小中連携の視点に関する教材について、中学校の先生方に小学校の取組を見せることができれば、さらに深まる可能性があるように思います。
- ・動画で実践例（実際に授業をしている場面）を示していただけると、現場の先生にとっては、即効性も高いと思います。
- ・新学習指導要領が目指す生徒の具体的なイメージがわからない。例えば、英語を使ってコミュニケーションをしている生徒（標準的な）の動画などがあれば、英語を使う生徒の具体的なイメージがつかみやすい。
- ・新『学習指導要領』における評価の仕方、とりわけパフォーマンス評価の仕方になかなか自信が持てない。
- ・言語活動や「読むこと」の授業展開など、実際の模擬授業の映像を見ながら、具体的にどのように授業を行っていくか学びたい。
- ・オン・デマンド教材は、授業の導入に役立つもの、題材テーマや技能に絞ったもの、臨時休業中に子どもたちが家庭での自主学習（予習・復習など）、英語科の学習の仕方、英語や異文化に興味を持つような動画（風俗、習慣）など自由に活用されるものがあるとよいと思います。最近は You Tube などでもいろいろありますが、子どもや先生方が安心して使えるものがあると良いと思います。現場の先生方は、多忙な中で制作する余裕もあまりないと思われます。

4. オン・デマンド動画教材

第2節での調査結果を踏まえ、離島・半島地域における英語教員の働き方改革の推進に資するため、スピーキング・スキルをトピックにした、対面研修に代わるオン・デマンド動画教材を作成した。

[1] Building Fluency in the Classroom

Building Fluency in the Classroom

2

Overview

- How much fluency practice do our students need?
- How to develop fluency
- Fluency Lines
- Other fluency building activities

3

How much of our courses should be dedicated to fluency?

- 25 – 33% of the course (Nation, 2009) (Brumfit, 1985)
- Tasks should be used right from the beginning of the course (Brumfit, 1985)
- Most language courses do not give enough attention to fluency development (Nation, 2009)

4

How to Develop Fluency

- The activity should be meaning-focused
- Easy tasks – Relevant to their experience
- Support & encouragement to perform at a higher level
- Blending or linking of skills

5

Fluency Lines

Procedure:

1. Make a prompt appropriate for the students
2. Display the prompt and give them time to prepare (10 seconds – 1 min.)
3. Assign partners
4. Tell student A they need to speak for a certain amount of time. (10 sec. – 1 min)
Student B listens to student A.
5. Rotate partners and have student B speak.
6. Rotate partners again and have student A speak to a new partner and so on.

6

Example prompts

1. What are 3 things you do in the morning to get ready for school?
2. What are 3 safety tips to prepare for an earthquake?
3. What is one country you would like to visit and why?
4. What is one place you would like to visit in Japan and why?
5. What did you have for dinner yesterday? What did you have to drink?

Thoughts on Fluency Lines

7

- Prompts – relevant to students' experience
- Note-taking - needs to be practiced (key words)
- Responses - need to be practiced
- Encourage to perform faster
- Encourage to perform for a longer time
- Observe mistakes– how can they improve

Example Questions

Weekly Catch-Up

8

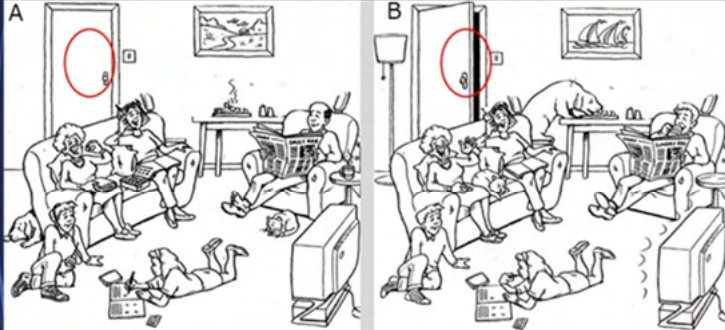
- What did you eat for dinner last night?
- How was your weekend?
- What did you do over the weekend?
- What did you do last night?
- How are your club activities going?
- What movie have you seen recently?

Expressions for showing interest or surprise

- Wow!
- Really? Me too!
- How interesting!
- That's really interesting / cool / terrible / difficult

9

Find the difference



- A: Is the door open or closed?
B: Open.
A: Oh, mine is closed. That is different.

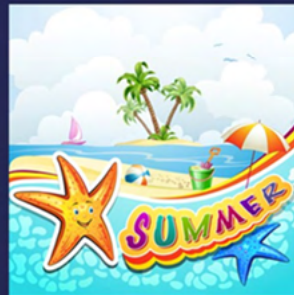
10

Listen and Draw

Example 1



Example 2



Rank Them

Which of the following foods is the best?
Rank them in order from 1 to 5,
1 being the best tasting food.

Pizza
Natto
Omelet
Fish
Apples

Find Someone Who...

Find Someone who . . .

Ask questions to your classmates and write
the name of the person who fits the description
in the space.

Find some one in the class who . . .

- | | | |
|-------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1. likes the color blue | _____ | Do you like the color blue? |
| 2. whose mother wears glasses | _____ | Does your mother wear glasses? |
| 3. collects something | _____ | Do you collect anything? |
| 4. reads the news everyday | _____ | |
| 5. eats rice everyday | _____ | |
| 6. has tried lamb | _____ | |
| 7. loves red roses | _____ | |
| 8. knows what a rodeo is | _____ | |
| 9. has prayed recently | _____ | |
| 10. likes flying in planes | _____ | |

/l/	/r/	
like	reads	recently
blue	red	roses
glasses	rice	pray
collects	tried	mother
lamb	wear	rodeo
color	before	
flying		
planes		

Building Fluency

2

Overview

- Weekly Catch-up
- Read, Take Notes, and Respond

Weekly Catch-Up

3

Talk to a partner (2 or 3 people only) for 2-10 min.

Example Questions

- How has your week been?
- How was your weekend?
- What did you do over the weekend?
- What did you do last night?
- How is your job going?
- What books have you read recently?
- What videos have you watched recently?
- What good meals have you had recently?

Expressions for showing interest or surprise

- Wow!
- Really? Me too!
- How interesting!
- That's really interesting / cool / terrible / difficult

4

Benefits of Weekly Catch-up

- Quick and Easy – 2 to 10 min.
- Simple yet meaningful
- Turns the brain on to English
- Builds confidence with the vocabulary and grammar you already know

5 Read, Take Notes, and Respond

- ▀ **Directions:** Record yourself answering the speaking prompt written below. Follow this order:
 1. Get out a pencil, paper, clock, and voice recording device (phone).
 2. Set the timer for 1 min.
 3. Read the prompt.
 4. Start the timer.
 5. Think about your answer and create a short outline. Don't write a script.
 6. After the 1 min. is finished then set the timer for 2 min.
 7. Begin recording your response. Your response should be 2 min. long.
 8. Save your file and listen to it. Follow the rubric and give yourself a score.

6 Example Prompt

- ▀ Describe a place in your country that you would really like to visit.
You should say:
 - where this place is
 - how long you would like to spend there
 - who you would like to go withand explain why you would really like to visit this place in your country.

7

Goals for your answer

- Brief introduction
 - Restate the prompt
- Body
 - Answer the prompts
- Conclusion
 - At 1:30 start your conclusion but try to use new vocabulary words to summarize your answer.

8

Rubric

- Fluency & Structure 2 points _____
 - - little hesitation (not too many pauses)
 - - well structured (introduction, body, conclusion)
 - Vocabulary 2 points _____
 - Uses appropriate vocabulary
 - Doesn't use the same words too much
 - Grammar 2 points _____
 - Few mistakes
 - Uses a variety of structures and tenses (combine short sentences)
 - Pronunciation, Intonation, & Tempo 2 points _____
 - Practice difficult sounds (r and l)or (v and b)
 - Stress key words (intonation)
 - Change the speed of the phrases (tempo)
 - Length 2 points _____
 - 2 minutes long
- Total _____/10

Conclusion

- Weekly Catch-up
 - Easy
 - Builds confidence
 - Meaningful
- Read, Take Notes, and Respond
 - Work on something new each time

Additional Prompts

Describe a book that you enjoyed reading because you had to think a lot.

You should say:

- what this book was
- why you decided to read it
- what reading this book made you think about
- and explain why you enjoyed reading this book.

Describe something you liked very much which you bought for your home.

You should say:

- what you bought
- when and where you bought it
- why you choose this particular thing
- and explain why you liked it so much.

Describe a hotel that you know.

You should say:

Where this hotel is

What this hotel looks like

What facilities this hotel has

and explain whether you think this is a nice hotel to stay in.

Describe a famous person that you admire.

You should say:

who this person is

what they are famous for

what you know about this person

and explain why you admire this person.

[3] Flipgrid



Outline

- 01** What is Flipgrid?
- 02** How does Flipgrid work?
- 03** Additional resources



What is Flipgrid?



- Free, education-focused platform to create and share short videos
- Teachers can assign topics, and students can create videos, share within the class and make response videos



How does Flipgrid work?

01 Create an educator account

04 Assign topic to students

02 Create a grid (class) + topic

05 Upload videos

03 Set up requirements

06 Watch and respond the videos



Discussion

Create Groups for your learning communities and add Topics to start the discussion.

[Groups](#) [Topics](#)

Groups (1)

Groups allow you to organize and share multiple Topics.

Search Groups



















Create a Group

Name	Responses	Last Updated	
 English Communication P2 Private · 6 Topics	158	Feb 26, 2021	Active Share Actions 

Topics (6)

[Export Data](#)

[Add a Topic](#)

<input type="checkbox"/> Actions	Title	Last Response				
<input type="checkbox"/>	 Introduce yourself 0 Responses	-	Active	Share	Actions	 
<input type="checkbox"/>	 Presentation 2 38 Responses	Jul 29, 2020	Active	Share	Actions	 
<input type="checkbox"/>	 The country you want to visit 38 Responses	Jul 15, 2020	Active	Share	Actions	 
<input type="checkbox"/>	 Presentation 1 39 Responses	Jul 29, 2020	Active	Share	Actions	 
<input type="checkbox"/>	 Say Hello on Flipgrid! 2 Responses	May 19, 2020	Active	Share	Actions	 
<input type="checkbox"/>	 Day 2 HW 41 Responses	Jun 2, 2020	Active	Share	Actions	 

Create a New Topic

Topics are where your students record their videos. Visit [Discovery](#) to explore shared Topics by educators from around the world!





Details

* Title

Introduce Yourself

19/35

* Prompt

  **B** *I* U  

Talk about your family!

23/1000
















Media

Add a media resource to engage your students.

Details

[Permissions](#)
[Essentials](#)

Media
Add a media resource to engage your students.

Permissions
Essentials

Permissions

Guest password (Optional)
Add a password for families and guests to join the Topic.

Essentials

Topic Moderation
New videos and comments will be hidden from students until you activate them. Previously submitted content will remain active. [Learn more about moderation.](#)

Comments
Students can respond to other students using video and text comments.

Guest password (Optional)
Add a password for families and guests to join the Topic.

Essentials

Topic Moderation
New videos and comments will be hidden from students until you activate them. Previously submitted content will remain active. [Learn more about moderation.](#)

Comments
Students can respond to other students using video and text comments.

Recording Time

Closed Captions

More Options
Cancel
Create Topic

Permissions
Essentials

Additional resources



- <https://help.flipgrid.com/hc/en-us>
- <https://www.teachthought.com/technology/how-to-use-flipgrid-guide-for-teachers/>
- <https://www.youtube.com/watch?v=C0QV3Yfv7UY&t=173s>

5. 「研修カルテ」による管理の一元化・スリム化

本節では、現行の研修制度における組織間の問題点を指摘し、研修制度管理の一元化・スリム化に資する「研修カルテ」を提案する。

中学校教員が参加する研修は、①都道府県、指定都市、あるいは中核市教育委員会が行う法定研修（初年次研修・中堅教諭等資質向上研修）、②市町村の教育委員会が地域の実状に応じて行う研修、それから③国が教職員支援機構等に委託して行う研修（「リーダー研修」や「喫緊課題研修」といった範疇に収められる研修等）の三つに大別され、文科省のサイトでも述べられているように、制度そのものの体系的整備が図られている。⁴

近年「GIGA スクール構想」により、学校現場における ICT 環境のさらなる整備・充実化は、今後、劇的に学校現場を変化させていくものと期待されているが、その一方で、研修制度の管理・活用という面に関しては、目を向けられることがこれまでは少なかったと言える。

①と③の研修については、その管理は（長崎県の場合は）教育センターが行っているものの、②については市町村教育委員会の管轄となっており、この乖離が教員個人単位での研修履歴管理の一元化・スリム化を阻害している一因となっているため、本受託授業で作成した「研修カルテ」を提案しただけでは、教育行政に資するものとならない。研修履歴管理の一元化・スリム化を図るためには、「研修カルテ」という電子管理台帳を一本化し、（現行制度のもとでは）県教委と市町村教委のそれぞれの担当者（入力者）が管理すればよい。管理台帳である研修カルテさえ一本化しておけば、校務の負担軽減を図る「統合型校務支援システム」のように、処理窓口をいくらかでも増やせるし、研修そのものの範疇（例えば、提案した研修カルテのように、「自主的な研修」）を増やしても、円滑な対応は可能である。

そもそも研修管理には、管理以外に、もうひとつ目的がある。それは、有能な人材を育成・選抜していく際の参考資料になり得ることである。英語の場合、指導主事以外にも、英語教育推進リーダー、それぞれの地区での（新課程の）伝達講習の講師や研究指定校の研究主任といった過去の取り組みを研修カルテに記載していけば、人材不足という懸念が高まる教育現場での人材育成に貢献することも期待できる。

⁴ この点については、文科省のサイト (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kokusai/002/shiryuu/020801eb.htm)を参照。

研修カルテ（例）

都道府県教委（法定研修）		市町村教委		その他（自主・国・校務等）	
研修タイトル	修・未	研修タイトル	修・未	研修タイトル	修・未
初年次研修	修	ICT活用研修講座	修	研究指定校研究主任	R1～
中堅教諭等資質向上研修	修	SNSトラブルの予防講座	修	ケンブリッジオンラインセミナー	修

研修の意義を踏まえた感想（例）

研修タイトル	感想
初年次研修	
中堅教諭等資質向上研修	